

大 禹 謨

— 讃岐の土と水の先覚・西嶋之友のことども —

ふく だ きよし
福 田 清*

「水を治むるもの国を治む」という。黄河の洪水を治め、のち帝舜より禅を受け帝位につき、夏国 17 王 14 世 439 年の始祖となった禹王の、たとえば、黄河治水中の 8 年間は自分の家の前を通っても中に入らず公事に精励したなど、その聖徳鴻業は周知のとおりであるが、この大禹王の雄大高遠なる精神とはかりごと「大禹謨（だいうぼ）」を己れの精神的背骨として、地方住民の福祉のため讃岐の土と水・治水・利水に精励した先人の一人に西嶋之友がある。

この仁、通称八兵衛といい、慶長元年（1596 年）遠州浜松に生まる。26 才（元和 7 年）、伊勢津藩主藤堂高虎の命により来讃。ついで、30 才（寛永 2 年）より 44 才（同 16 年）の 15 年間、讃岐生駒藩に客臣として滞讃、かんがい・土木事業に大きな足跡を残した。

さて、讃岐の国は、沃土と温和な気候に恵まれているが、天は二物を与えずのたとえ、山浅く雨の少ないことで、用水には苦労を重ねてきた。すなわち、年平均降水量は 1200 mm（高松气象台）であり、西嶋の記録によれば、寛永 3 年旧暦 4 月～7 月までの 75 日間、まったく雨がなかったという。したがって「水」の確保は、この地方の死活問題であった。讃岐平野に今に残るその数、大小 3 万余といわれるため池が、先哲の知恵とその忍耐を雄弁に物語っている。

西嶋は、これらの池の築造、増築・修復に精根をかたむけた。満濃池（貯水量 1540 万トン）は、これらの池のうち、最大のものであるが、弘仁年間破堤し、容易に復旧できず、朝旨を奉じて、真言宗の開祖・高僧空海（弘法大師）修築を行なう。しかし長暦年間ふたたび破堤し、以後 600 年間復興できなかった。西嶋は、讃岐藩主生駒高俊の命により寛永 5 年 10 月 19 日～同 8 年 2 月 15 日の 2 年余を費し、ついに修復をなしとげた。かくて、仲郡で 19,869 石、宇多郡で 3,160 石、多度郡で 12,785 石、計 35,814 石をかんがいすることになり、農民に大益をもたらしたのであった。

西嶋の手がけた池は、満濃太郎、神内二郎（155 万トン）、三谷三郎（177 万トン）といわれる讃岐の三大池を

はじめ、この地方の大池ばかり 90 余であったという。かくて、讃岐の用水の便備わり、収米高は向上し、生駒藩の石高は寛永 4 年には 10 万石未満であったものが、同 16 年には 15 万石を越えていたという。

西嶋は、寛永 14 年（1637 年）、香東川（阿讃山脈に源を発し、全長 30 km、香川県の県名のもととなる）が、もと大野郷の西から東西に 2 分流していたのを、東の流れをせき、西の流れ 1 本にしたという（旧香東川河床にあり、その豊富な伏流水を利用した庭園が栗林公園である）。

彼の治水・利水技術は、1) 労力と工費のかさむ掘りだめ池や利水の低い皿池をさけて、2) 阿讃山脈よりの水をせき止める麓（ふもと）池方式をとった。しかし、3) これらの池の多くは防災目的に使った。それは、もともと少雨である上に山が浅いため河川の大多数は渇水時水がなく、したがってかんがいにはほとんど役に立たない。しかるに、ひとたび集中豪雨があれば河川ははんらんし、人畜田畑を失うに至る災害をひきおこす。この河川水を活用し、はんらんの危険をなくするため川の上流にため池を作った。これは今日のいわゆる「多目的ダム」の考え方に立ったものといえる。さらに、新田の開発を行なったが、海面干拓のことについても考えをもっていたといわれている。その後、寛永 17 年（1640 年）生駒藩は、讃岐 17 万 3 千石から奥州出羽国矢島庄 1 万石へ転封され、かわって「四国探題」の松平家が入讃し、以後 11 代 228 年間続く。このため西嶋の讃岐における業績は、生駒家の歴史とともに、その多くが不明になっているといわれる。

時代は移り、徳川から明治、大正、昭和と幾星霜を経るが、歴史はくりかえす、今や国の力で近代技術とシステム工学の粋を結集して、吉野川（本流延長 193 km、年間流量 45～50 億トン（池田地点））の本川上流本山に早明浦（さめうら）ダム（貯水量 3 億 1600 万トン）の築造を中核とする吉野川総合開発が進行中であり、香川県は池田分水地点より香川用水年間 2 億 4700 万トン（農業用水 1 億 500 万トン、工業用水 7900 万トン、上水道 6300 万トン）を導水し、県下 5 市 32 町に配水すること

* 香川大学農学部農業工学科教授・農博

ひろば

になり、「用水」の貧困を一掃し、さらに水需要の根本的な解決がなされようとしている。この事業は、本州・四国連絡橋の架設計画とともに、まさに世紀の大事業である。

その後、伊賀奉行、城和奉行を歴任し、85才延宝8年（1680年）病没し、伊賀上野紺屋町正崇寺にねむる西嶋は、この壮挙を何ときくであろうか。

ともあれ、寛永の昔、讃岐のかんがい・土木事業に偉大な足跡を残した先哲の大精神に学び、われわれは、視

野広かつ、気宇雄大、その志すところ高遠に、正に「大禹謨」を心の糧としたいものである。

（付記）

西嶋の筆になる石碑「大禹謨」は、栗林公園内に現存する。なお、本文を草するにあたり、桂重喜：讃岐の池と水、藤田勝重：西嶋八兵衛と栗林公園、水資源開発公団：香川用水 に負うところが大きい。記して謝意を表わす。

（原稿受付、1969. 8. 4）

会員の皆様へのお願い

当学会は毎月会誌「土と基礎」を会員の皆様へお届けいたしておりますが、その中には、会員の方から住所変更届けをいただかなかつたために、学会へ返送されるものが少なくありません。当方でできるだけ調べて転送いたしておりますが、住所不明のため、会誌をお送りできなくなることが多々あります。

このような事態が生じないために、勤務先・所在地および自宅現住所を変更されたときは、速やかに学会事務局会員係までご連絡ください。

なお、会誌発送手配上、毎月 15 日以前にご連絡をいただきますと、その月の会誌は旧送付先にお送りするようになりますことをご了承願います。

会費納入のお願い

44 年度も後期になりました。本年度までの会費（正会員会費、国際会員会費、特別会員会費）の未納の方は、早めに納入くださいますようお願いいたします。

なお、本号とじ込みの振替用紙で納入されますと便利です。

正会員会費	年 額	2,000 円
国際会員会費	”	2,500 円
（正会員会費のほかに）		
特別会員会費	年 額	特 級 80,000 円
		1 級 60,000 円
		2 級 40,000 円
		3 級 20,000 円
		4 級 10,000 円